

## 古口寿命院「御七日（おなのか）祭」のあらまし

### 1.以前は（いつの時代の頃を指しているのか不明）・・・

1月7日（以前は旧暦12月1～8日）午前6時頃より、寿命院にて同院神主と氏子10名程度にて行われる。拝殿には神饌としてコメ、酒、野菜を供え、参拝者より奉納された大ローソクも名前を付けて供される。行者はもちろんのこと、参拝者も賽銭を挙げて祈願し、神主は護摩を焚いて月山を中心として礼拝祝詞を上げ、行者も「しめ」という麻糸で編んだ紐を首から肩に掛け、頭には「冠」という白布を巻いて列席し、“懺悔懺悔六根清浄・・・”を神主の先導により繰り返し唱える。

“お行に上がる”と言って行者として宿泊する参拝者の家族は、行が終わって帰宅するまで食事は精進料理で帰宅後、精進降りする。

15歳（元服の年齢）を迎えた男子は、裸参りをした（今は見られない）。寿命院には一般参拝者として大勢の若者が集まり、スクラムを組んで跳び回り、神殿の床が抜けるほどだった。抜けても咎められず寧ろ健やかに成長すると言われた。

神殿は狭いが餅や駄菓子を売る店も出ていた。（古口自治会発刊「古口歴史探訪」より）

### 2.今年（令和2年）は・・・見たり、聞いたりしたこと

(1)御七日祭は”五穀豊穰・家内安全・村内安全・無病息災・身体堅固など諸々”を寿命院から出羽三山、外川神社、白山神社並びに東北各神社、八百万神“に祈願するものである。遥拝殿（ようはいでん（遙拜殿）。拝殿に掲げられている額）とは”遠く離れた所から神仏などをはるか（遥か）におがむ（拝む）ための建物“という意味である。（現 早坂神主）

(2)毎年1月7日に実施。以前は旧暦12月7～8日に行者が一晩かけて御祈禱していた。氏子も（寿命院に）泊のうえ入浴し、身を清めた。

（参列氏子）

#### (3)当日の行程

- 14：30
- (1)氏子集合（白装束に身を包む。御燈明任意持参）
  - (2)白山神社参（詣）拝（三山拝詞（さんやまはいじ）5回唱和）
  - (3)稻荷神社参（詣）拝（三山拝詞なし）
  - (4)湯殿山〔石碑〕参（詣）拝（三山拝詞3回唱和）

↓

15 : 30                    寿 命 院 帰 着

(休      息)

18 : 00            一般者御七日祭（御燈明は任意奉納）

①祝詞奏上・御札祈祷  
②三山拝詞（5回）  
③御札拝受

↓

18 : 45            終            了（御燈明は持ち帰り）

### 3.その他参考となること。

(1)さんげさんげ（懺悔懺悔）の意味

自分の過去の罪惡を仏、菩薩、師の御前にて告白し、悔い改める。（後悔とは違う。）ーウイキペデアー

(2) 六根清浄（ろっこんしょうじょう）

「眼・耳・鼻・舌・身・意」（六根）が修業することの功德によって、清らかになる。

山岳修験では、登山で「さんげさんげ、六根清浄」と唱える。

(3) 六根罪障（ろっこんざいしょう）

六根によって生じた解脱（俗世間の束縛、迷い、苦しみから脱出し悟りを開くこと）の妨げになる罪業で「肘折さんげさんげ」などで唱えられていると言われる。

(4) 以前の寿命院は、真言宗系修験道で、明治の神仏分離政策により神道となったが、御七日祭は以前の名残りとして継承されている。

（現    早坂神主）



1.参拝者（氏子）集合



遙拜殿（ようはいいでん）

遠く離れた所から神仏などを  
はるか（遙か）におが（拝）  
む場所、という意味。



8.御七日祭

三山拝詞斉唱



2.白山神社へ



7.御七日祭

祝詞奏上



三山拝詞

あや（綾）にあや（綾）にくす（奇）しくたふ（尊）と  
〇〇〇神社のみまえ（御前）をおろが（拝）みま  
つ（奉）る

\* 神社名は月山、湯殿山、出羽（でわの）、外川  
白山神社であり、節（ふし）がつく。



3.白山神社参拝

三山拝詞（さんやま  
はいじ）斉唱



6.御七日祭

夕方、一般者が寿命院  
に参集する。



9.御七日祭

三山拝詞斉唱



4.稲荷神社参拝

三山拝詞斉唱なし



5.湯殿山神社（石碑）  
参拝

三山拝詞斉唱



10.御七日祭

御神酒を飲んで閉る。  
玉串料持参者には、  
お札があり、燈明奉納  
者は持ち帰る。